



大阪青山歴史文学博物館（川西市長尾町）は、大阪青山大学・短期大学（大阪府箕面市）が文化財を研究・展示するため北摂キャンパス内に造った施設だ。同短期大学は開学以来、古文書・典籍を中心に4000点を超える資料をコレクションしている。中には、藤原為家が紀貫之の自筆本を書写した国宝「土左日記」をはじめ、重要文化財14点、重要美術品42点の指定文化財もある。

博物館が開館するまで図書館で保管していたが、長期間にわたり収蔵展示できる博物館が必要になり1999年オープン。将来、博物館 자체が文化遺産となることを願って、日本文化を代表する城郭に決めた。桃山時代の様式を取り入った四層構造の中は博物館だった。

国道173号を川西から能勢方面に走ると突然、お城が目に飛び込んでくる。「新しい観光スポットができたのか」と思って訪ねてみると、中は博物館だった。

国道173号を川西から能勢方面に再現したという。なかでも、特別展示室にある金色に輝く「城主の間」は一見の価値がある。

同博物館では特別展を年3回開催

しており、この期間は一般に開放している。高松宮家と近衛家に伝わる

御所人形などを展示する新春特別展は4月10日まで。休館日は月曜日（最

終日は開館）。4月25日からは春季特別展が始まる。入館料は、△大人

400円△小中学生250円。阪急

宝塚線・川西能勢口で乗り換え、能

勢電鉄・一の鳥居下車すぐ。同博物

館（072・790・3535）。

大阪青山歴史文学博物館



写真・文 山田哲也

□□□22



最上階の天守は展望室になっており、川西市内や妙見山が一望できる

桃山時代の様式
城壁は忠実に 建物自体も、遺産に の願い